



淡路五色町で漁業を習うインドネシアのユリ・タムリンさん(昨年4月来日)

PHD運動とは、「自分のためだけに使つてい
た財、時間、技能、知恵などの10%を平和づくり
(Peace)・健康づくり(Health)を担う人材を
育成(Human Development)し、日本とアジ
ア・南太平洋地域を
対象に、草の根の人
々の交流を通じて実
践し、ともに生きる
地球社会づくりをめ
ざす運動」である。

運動のすすめ方と
しては、アジア・南
太平洋諸国の村々か
ら研修生を日本へ招
き、日本の村や町で
農業、漁業、保健衛

ネパールを中心に18年間、東南アジアの発展途
上国で結核などの病気に苦しむ人々のために医療
奉仕活動を続けてきた岩村昇博士がPHD運動を
提唱し、具体的な活動を神戸を中心に始めてから
もうすぐ六年になるとしている。

PHD運動とは、「自分のためだけに使つてい
た財、時間、技能、知恵などの10%を平和づくり
(Peace)・健康づくり(Health)を担う人材を
育成(Human Development)し、日本とアジ
ア・南太平洋地域を
対象に、草の根の人
々の交流を通じて実
践し、ともに生きる
地球社会づくりをめ
ざす運動」である。

運動のすすめ方と
しては、アジア・南
太平洋諸国の村々か
ら研修生を日本へ招
き、日本の村や町で
農業、漁業、保健衛

KOBE発アジア
生活の中の國際



★神戸を福祉の街に〈159〉

PHD運動

KOBE発アジア



橋本 明
〔社団法人家庭養護
会事務局長〕

生、裁縫、編物、工芸などを学び、帰国後は出身
の村へ帰つて日本で習得した技術や生活体験を村
づくりに活かしていくことを援助していくことに
ある。五年前の七月に第一期生がネパールとフィ
リピンから二人ずつ来日して以来、これまでにタ
イ、インドネシア、スリランカなどからも全部で
18人が招かれており、現在は第四期生が四人研修
中である。原則として研修期間は一年間となつて
おり、一人にかかる費用は旅費、生活費、研修器
材、資材費、交通費、小遣などを含めて約三百万
円かかるが、これらはすべて寄付や会費でまかな
われている。日本での研修の成果が、帰国後研修
生たちによってどう活かされているかを確かめ、
支援を続けていくためにもフォロー・アップが重
視され、指導者を派遣したりして息の長い協力が
続けられている。この六年近くの間にPHD運動

への賛同者は全国にひろがつてきたが、この運動
の目的の一つは日本人の目をアジアの草の根の人
たちへ向けさせることにあるから、会員や賛同
者をひろげていくことはこの運動の大変な事業の
一つである。岩村博士は昨年の五月に日本を離
れ、バンコクにあるマヒドール大学の中のアセア

KOBE MODERN CULTURE



美術

★第12回絵本原画展

「田島征彦の世界」

3月7日(土)~4月12日(日)

西宮市大谷記念美術館
円 大高生500円 中小生300円



現在、日本での絵本制作は非常に活発になされ、世界的にみても最も優れた絵本生産国となっている。本

展は「田島征彦の世界」で、西宮市大谷記念美術館にて開催される。田島征彦は、1933年生まれの東京人で、現在は大阪府高槻市在住。絵本作家として多くの賞を受賞し、多くの絵本を発表している。また、絵本の原画を展示する機会も増えている。

田島征彦の絵本は、その豊かな想像力と、繊細な筆触で、多くの人々に愛される。特に、子供たちに愛される絵本は、その世界観が、多くの子供たちの心に響いています。

田島征彦の絵本は、その豊かな想像力と、繊細な筆触で、多くの人々に愛される。特に、子供たちに愛される絵本は、その世界観が、多くの子供たちの心に響いています。



松本親しま

城に密
着した
企画で
開催する。オーブン以来地

度目で、今までは東京を地

盤として「銀巴里」をはじ

め、主なシャンソニエにレ

ギュラー出演し、その安定

した実力には定評がある。

作詩、作曲、弾き語りと多

彩さの

上に、

暖かい

らにじ

み出る歌をぜひどうぞ。



井関 真人

人柄か

らにじ

み出る歌をぜひどうぞ。

演奏曲目・「五月のパリ
が好き」「電話」「ブルジョ
ア」「ボンボン」ほか。
ピアノ伴奏・藤田美乃留。



舞踊

★アキコ・カンダ

「バルバラ」を踊る

3月11日(水)18時半 神戸文化中
ホール 3000円

「女」を踊り続けるアキ
コが、言葉を必要としない
心にのみ響く世界を、劇場
空間一杯に創り上げる。



吾妻秀扇(芸術院会員)
と共に吾妻秀扇の会

3月26日(木)18時半演/神戸文化
中ホール/5000円

★吾妻徳穂(芸術院会員)

と共に吾妻秀扇の会

寺)を秀扇。「四季の山姥」

を徳穂

秀扇が踊る

地方は

寺)を秀扇。「四季の山姥」

を徳穂



アキコ・カンダ

サンバル市民ギャラリー 10~19時

今年3月で開廊5周年を

迎える「サンバル市民ギャラリー」が、その記念企画

として「5周年5人展」を開催する。オーブン以来地

域に密着した企画で

度目で、今までは東京を地

盤として「銀巴里」をはじ

め、主なシャンソニエにレ

ギュラー出演し、その安定

した実力には定評がある。

作詩、作曲、弾き語りと多

彩さの

上に、

暖かい

らにじ

み出る歌をぜひどうぞ。

井関 真人

人柄か

らにじ

み出る歌をぜひどうぞ。

アキコ・カンダ

井関 真人

人柄か

らにじ

み出る

週間誌で連載にもなり、いまま市川崑監督で映画化された田中絹代さんだが私は昭和の初めからずっとつきあいしているのでこの人の私の感じたこと実さいにこの目でちかに見たことをこのチャンスに伝えたい。

大正十三年ごろから映画に出ていてそのころは私は見もしなかった。大阪の楽天地の少女びわ弾きの女の子。雑誌でチラと見た顔は貧しかった。私は嫌いだった。だいたい大正時代の日本映画を

です。よくやるというのは撮影の自分の出番が終っても帰らない。他の作品の撮影現場をじっと覗いてましてね。そのうちにこの子、見込みあると思うようになりましてね。やがて昭和の大戦争が終った。田中さんはすでに第一級スター。逢うと礼儀正しく言葉遣いもきれいで美人じゃないが美しい人になっていたし、『えらい人』にもなっていた。アメリカに行つた。昭和二十四年(一九四九)約二カ月。ハリウッドその他をまわって帰ってきた。そのころはまだアメリカがえりは西洋がえりのこおふんだつた。田中さんはそうしろと教えられたか命じられたのであろう

田中絹代さんのこと

淀川長治

（映画評論家）

■ CINEMA 試写室

私は少年なりに馬鹿にした。そして日本映画がトーキーとなつて昭和六年（一九三一）の「マダムと女房」のころからこの人のものにも注意するようになつた。しかしどうい『女優』というスケールはない。ずっと牛原虚彦監督に逢つて何回も彼女のことを聞いた。どい女優のがらじやないんですよ。それで撮影所長があれをスターにしたらおまえに今でいうと五千万円やるといわれましてね。ところが田中という女の子よくやるん

ずっとのちに私は田中さんから、あのあとほんとにわたし死のうと自殺を思いつめましたがこれで死ねば田中絹代があまり哀れで。笑いを受けた。

こんどは歯医者で彼女を知つた。私のゆきつけの歯医者で、電話。医者が『心配りりませんよ』と何度も念を押している。誰と聞くと『田中君なんですよ』それで『椎山節考』（昭和三十三年）のおりんを演るので前歯一本抜く。私はほんとに抜くつもりと聞いた。台本に前歯一本抜いたあとを舌

でさわるとあるから抜かねばと田中さん。そんな馬鹿な。それで田中さん痛いかと聞いてるの。すると医者が“そうじゃないんですよ。抜く治りよう費は高いですかと聞いてるんですよ。田中君はケチだからねえ”。私はびっくりして松竹に電話をかけ木下恵介さんにこのこと伝えた。治りよう費はもちろんその場で松竹持ち。

ずっとあと田中さんは帝国ホテルすまいとなつた。訪ねていった。鎌倉にお宅があるのに、そ

見たらあなた！となりの男の手。エッ！わたしまだこの年で男性にもてると思つておかしいやら嬉しいやら。それでその人、映画すんだあとついできまして表で“どつかゆませんか”それでわたくし“帝国ホテルなら”と言いましたらびっくりして。わたし、メガネとつて“ハイ、わたしです”とその人見たらワーッと逃げました。淀川さん、わたしまだもてますの、この年で。

「月は上りぬ」（昭和三十年）は彼女の監督作品。このとき四十七才。私とおな

いどしだからよくおぼえている。

日活のそのスタジオの本番撮影も見た。半分おとこになっていた。監督はこのあとも「乳房よ永遠なれ」（同年）「流転の王妃」（昭和三十五年）がある。

「サンダカン八番娼館」の老女もその演技その扮装は立派だった。「檜山」のおりんも「サンダカン」の老女も私は田中さんに面と向つて激賞した。このひとは私に質問したり私の感想をきくときは三歩さがつて聞くというお行儀の良さだった。

ここにいる方が安くつきます。そしてこんなことを言つた。石焼きいもが食べたくてそろつとガード下で買ってきてそろつとお部屋で食べて。あとは外に捨てにいきましたのに部屋じゅう石焼いもの匂いがのこつて困りましたねえ。それからもうひとつこんなことも言つた。こないだ映画館を見てまことに私両手をあわせて見てたのに私の右のひざに私の手。びっくりして私のそのひざの手、よく



『マダムと女房』（1931）に出演したときの田中綱代

は三歩さがつて聞くというお行儀の良さだった。そして昭和五十二年（一九七七年）惜しいことに亡くなつた。このひと明治四十二年の十二月末生れなのでこのとき六十七才。その一年半ほどまえ私は逢つた。そのとき田中さんは實にえんりよがちに“こんど一本、監督します”それで私が“えらい”と田中さんの手をとると“それもフランスでオール・ロケで”と打ち明けた。死ぬ日まで映画のなかに生きぬいたひとだった。

SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより

REFRESH

★創業百二十年を機に
より一層内容を充実

創業百二十年を迎えた菊水總本店が、伝統の味を伝える「瓦せんべい」をより美味しくリフレッシュ。

原材料のランクを上げ、添加物のない自然の飼料で育くまれた玉子や自然の蜂蜜等の素材を使用。さらに長い間に工夫を重ねられた伝統的な味を残しながら、素材をよりよく生かす正統な作り方で、なお一層美味に。パッケージもシンプルながら格調のあるデザインに一新。この瓦せんべいを味わわずに神戸つ子とはいえません。



味・パッケージとともに充実

FAIR

★寒さにふるえる夜は
地酒で一杯！

1月23日から3月8日まで千石舟では郷土の酒と肴



さんちか千石舟でも好評



GLORY

★映えあるレオボルド勲章
坂野会長、岡崎社長に
授けられる最高の勲章。

ファミリアは一九七九年
から子供服専門店デュジヤ

ギーの経済発展に貢献した
人材にベルギー国王から授

けられる最高の勲章。

レオボルド勲章は、ベル
ギー大使マルセル・ドウバ
ス氏ご夫妻、貝原俊民県知
事、安好匠、神戸市収入役、
石野信一商工会議所会頭ら
が出席し祝辞を述べた。坂
野会長も「今後一層の努力
を重ねベルギー王国との親
交を深めていきたい。」と
お礼のあいさつを。



NEWS

★ハイクオリティな北野ク
ラブに多目的ホール誕生

紳士淑女の社交場、北野
クラブ 1Fのダンスホール

(64坪、200畳) がこのたび
と摂津の野肴(かしわきも、
はまちの刺身、なたね和え)
百万両などの灘の銘酒2合
肴まつりが催されている。

大黒正宗、福寿、菊正宗
シリーズの一環として「灘

五郷(御影郷)の酒と摂津佳

肴まつりが催されている。

2月1日から営業を開始し

てある。展示会やパーティー、結婚

披露宴の会場として使用で

きるほか、音響設備や照明

も完備されているので、フ

ラムは従来通りで、グルメ

の舌を満足させるランチ、

ディナーとすばらしい景観

が相交わる人気だ。

中。魅力あるイベントスペ

ースとして注目されている

なお2階フランスレストランは従来通りで、グルメ

の舌を満足させるランチ、

ディナーとすばらしい景観

が相交わる人気だ。

この多目的ホールに衣がえ

してからは若者客も急増



多目的に使用できるイベントホール

■北野クラブ/☎ 222-5123
ランチ AM11:00~ PM2:30
ディナー PM5:00~ PM10:30



●生涯食品マネジメントを手掛けたい
片山 幸彦さん 〈神戸ポートビアホテル マネージャー〉

入社して今年3月で7年目を迎える。10年ほど調理の経験もあり、マネジメントと両方に精通する。「スタンダードメニューをより美味しく、ベストを尽くしたサービスでお客様をお迎えしたい。」と語る口調も落ち着いたホテルマンだ。コーヒー会議を何回も開くなどコーヒーの見直しやスタッフの健康管理などの心配りが大切という39歳のナイスガイ。

NEWS

●ユーハイムがポート アイランドに移転

株式会社 ユーハイム
(河本武社長)が、ポート

アイランドに新社屋完成
新社屋は、工場と流通
センターと本社を合体さ
せた5階建。総工費28億

円で1年がかりで完成。

最新型のコンピューター
情報網を完備している。

披露パーティーを2月10
日、神戸ポートビアホテ
ル催場の間で開催。石野

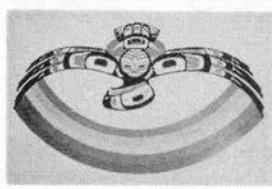
信一神商議会頭、木口衛

ワールド会長をはじめ、
多くの方がお祝いにかけ
つけた。東京ディズニーランドからミッキーマウ

スやモーリーにかけて
華やかで愉快なパーティーとなつた

TOPICS

●1月15日より20日まで丸善
ギャラリーで「カナダ北西海岸
スクリーン民族芸術展」が催
されました。カナダ北西海岸に
居住するインディアンによるシルクスクリーン民族芸術によ



驚の虹

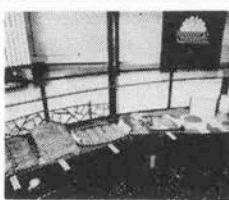
05おユロ銳て開ビサ金借●品び明1
20し「苦敏歌かア好楽ボジラ、アザラン、シャコ、ク
10モいなにれのる子の1トマ、オカミ、ワシなど
1おれア人感こる第。さ間トビの鳥類、オガラ、サケ、オヒヨウなど
1問など生性めも3サんでビ
1い語ウのての回ロの3ア
1合で「イ味捉」。で公ン話月ホ
まわえ。演講・を30テ
でせ入ト石な歌題講ド開日ル
「は場に井甘は座、く(月地
「料富さく通、「としーが、1
32だのは、「べト催石階



●ポートビアホテルより

お食事券を

昼、夜ともに景観のすばらしいポートビアホテルよりお食事券をプレゼントします。今回は2Fサン・マロのディナーをペアで1組の方に、華やかな春爛漫のなか、行き届いたサービスと、味わい豊かなディナーを中心としたお楽しみください。



●菊水総本店より

瓦せんべいを

淡川神社正門前の菊水総本店より、「瓦せんべい」を10名様にプレゼントします。添加物のない自然の穀粉で育くされた玉子や自然の蜂蜜等上質の素材を使用し、より美味しくリフレッシュしました。ご贈答にも最適。受け取りは菊水総本店まで。

PRESENT CORNER

応募方法 ●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F 「月刊神戸」2号。神戸百貨店へプレゼント係までご応募下さい。3月20日消印まで有効です。当選者は「神戸」20号当選葉書を発送、葉書を持ってお店まで、プレゼントを受け取りにお出かけ下さい。

ハイセンスな紳士服で
最高のおしゃれを



三恵洋服店

神戸・元町4丁目 ☎ (078) 341-7290

ASAHI アサヒビール株式会社



《ドイツが生んだ世界のビール》

LOWENBRAU

Under License by ASAHI Breweries, Ltd.

ポケットジャーナル



★4月29日、いよいよ

メリケンパークオープ

同時にオープする施設は、海洋博物館（鉄筋2階建）、海運・港湾・航海などの資料を集めた海事に関する総合博物館。株式会社が運営する多目的ホー



メリケンパーク

・音楽・

ダンス

・ギヤ

ラリー

・ショ

メリケンパークだ。

★新しいのに懐しい

旧居留地時代の建物を利

用して、大丸が「リヴ・ラ

・ウェスト」を3月より

オープする。

一等に利用するカルチャ

ース・スペース。レストラン「フ

ィッシュダンス」は1階に

レストラン・バーとテイク

アウト、2階が串カツと鉄

板焼。カリフオーリニアの雰

囲気のカジュアルで上品、

そしてちょっとリッチなお

店。その他、緑豊かなブロ

ムナード、異人館風の船客

待合所、展望広場など。



古き良き建物でオープ

・ビーチを輸入窓

・サザビーに、

男のた

・サザ

・アカセ



懐いポスターもいっぱい

芸・服飾・建築・ポスター
活の様式を大きく変革して
いった昭和初期。当時の工
芸・絵画の各分野から約200点
の作品を展示する。

モダン日本に向かって生
れ。モダン日本に向けた「モダン昭和展」が開催さ
れた。H.K.特集「ドキュメント昭
和」関連企画として、3月
26日～31日松坂屋大阪店で
「モダン昭和展」が開催さ
れる。

★懐かしき也、モダニズム
昨年4月から放送中のN
H.K.特集「ドキュメント昭
和」関連企画として、3月
26日～31日松坂屋大阪店で
「モダン昭和展」が開催さ
れる。

■入場料 一般300円、高大生600円、
小中生400円
■主催 N.H.K.サービスセンター
■この「モダン昭和展」の招待券を
ペア20組にプレゼント! ご希望の方
は、神戸っ子N.H.K.係まで葉書で
お問い合わせください。



東京でのフェアも好評

主なイベントとして、ヘ
ットコンテスト、ヘットの
模範演技・デモンストレ
ーション、ヘットの
健康相談、チ

■入場料 一般300円、高大生600円、
小中生400円
■主催 N.H.K.サービスセンター
■この「モダン昭和展」の招待券を
ペア20組にプレゼント! ご希望の方
は、神戸っ子N.H.K.係まで葉書で
お問い合わせください。



本場の味と製法

使い、
ツ類
チョコ
レート
やナツ



「お菓子の
国から」
押尾 愛子



「中国の港湾
と物流」
鳥居 幸雄



「中国の政治
と社会」
井上 かず



ガイド 書



「世界の政治
と社会」
井上 かず



「世界の政治
と社会」
井上 かず



「世界の政治
と社会」
井上 かず



「世界の政治
と社会」
井上 かず



「世界の政治
と社会」
井上 かず



「世界の政治
と社会」
井上 かず

■ こころの歳時記 ■

遊び心のある神戸風のつきあいを



大谷 異世さん<団>大谷徳風社社長



荒津 正美さん<神農ドレス社>



永田 典子さん<永田良介商店>



三藤 麻さん<元町画廊>

神戸は、面白い街で、今日も日韓文化友好の会があり生田神社へ行く。くんだが、文化的なレベルで私達は韓国の美術家とおつきあいをしている。そうするその一人がソウルの芸大の学長になられたりす。おつきあいしておられた。金勘定なしで

佐藤 そういえば、うちの女房も豆腐とコンニャクが美味しいとか。
永田 あれは永源寺から取り寄せてるの。大丸が二月末どう変るか楽しみですよ。私は、大丸前から元町にかけて地下がバスターーミナルにならないかと思うんですよ。
佐藤 それはいい。それぐらいス

永田 大丸前は、神戸らしい専門店が軒を並べていますからね。最近は大丸の神戸店の地下食料品売場がステキになつて大変な人気です。お菓子のコーナー、お酒のコーナー、群愛なんかの中華おそうまい、それに“さぬき”的手打うどんほんとに美味しい(笑)。

廉先生と、大丸前の永田良介商店の典奥さまに、今日は元町や、大丸前の界隈のお話を伺えれば。
永田 大谷さんとは、先日もご長男のご結婚式に主人共々出席させて頂いたり、私どもの欧風家具をずっと前からご愛用下さって……
大谷 永田さんの家具は、あきがよふべく、客うつぎも一通り。

大谷 アーチストのお世話をなさつていらっしやる元町画廊の佐藤

株式会社 大谷徳風社
金葬連認定葬祭専門士 資格取得者
代志葬祭 大谷晃世
全国葬祭事業業者協同組合
神戸市規格葬儀取扱指定店 理事
本社／神戸市長田区松野通1-11-12
078-1621-0089
鈴蘭台商店／078-1592-5485

★徳真会へのご入会は、^{電078(67)50658} へ★当会員は葬儀基本料金の1割引他特典が色々あります。

大谷 荒津 和也 息子と共に会員ですが、毎月のマンスリーでも講師の方々と講義の後で皆と一緒に会食する。そこで異業種同志のともに情報交換をしていますからね。

茶だけだと全然集まりが悪くて、理事会は必ず神戸の美味しい店で食事をして開くことにしたら、何と凄い出席率（笑）それからはどんどんK・F・Sもいい仕事をしましたよ。

いると、いつの間にか両国のいい
展覧会になつたり……。遊び心が
大切ですよね。

全葬連認定葬祭専門士資格取得者
株式会社 大谷 徳風社
浅香重穂 大谷 晃世

★当会員は葬儀基本料金の1割引他特典が色々あります。

「神戸・発見

PART 3

福嶋敏雄

（サンケイ新聞記者）

カメラ 池田年夫



の八坂神社と加茂川、そして神戸・東門には生田神社があり、東側にあるフランコードにはかつて生田川が流れていた。

ネオン街は水の匂いと、目に見えぬ神々の息吹きを好む。ネ

オン街での酒飲は非日常の行為であり、神々の加護を受けた密やかな祝祭、日常の生活でたまつた不用なモノを流してしまったおおらかな蕩尽など。日常の側からみれば忌むべき世界であり、健全、健康などどこにもない。

十年前、神戸に赴任した直後から、「水」と「神」を求めて、毎晩、祝祭と蕩尽を繰り返した。流してしまわなければならぬ不用なモノが多すぎ、駆り立てられるように東門から北野一帯を巡った。

例えば、現在、北野坂と呼ばれる阪急三宮駅北側道路にはかつて、木造モルタル造りの文化住宅のような酒場が軒を連ねていた。

闇の中にポツと浮かぶ北向き地蔵の前を通り、

悪所を囲むおはぐろどぶのように汚ないどぶ川を

渡る。建物全体から夥しいネオンの看板が古代の

「神戸」と 「水」のまち

酒は飲むためにあった。

この奇妙な液体の中に果喰うアルコール、酒精はおり、のように肉体の底に堆積され、暗部でちよろちよろと揺らめく焰に注がれる。焰はやがて燃えあがり、熱い精が体内を駆け巡る。

幸福。陰鬱。饒舌。錯乱。陽気。怨念。性的高揚。酒の精は酒飲者に対し、酔い、という身体の異化作用の過程で様々な「表現」を強いる。時には破天荒に。こうして表現された異化の世界には本来、健全、健康な要素はどこにもない。だから飲む。理由もなく飲む。胃臍の外壁が破れ、血ヘドを吐いても飲む。死ぬまで飲む。死水は死酒であつてほしい……。

ネオン街といわれる酒場集合地帯の社会学的な考察がすでに為されているのかどうか知らない。ある時、ひとつの地理的な共通性があることに気付いた。

「水」と「神」。

かつて飲み歩いたネオン街では、大阪・ミナミの道頓堀、キタのお初天神と中之島、京都・祇園



ネオン街には、水の匂いと神々の息吹きが溢れている。

獣の突起のように突き出、交叉する原色の光が周囲を包む。酌婦と呼ぶにふさわしい女たちの面から舞った白粉、何度も何度も吐き散らされた酩酊者の吐瀉物、酸えた小便、それにバルサンの匂いでが搅拌され異様な臭気の塊となつて鼻を打つ。ドアを開け、隅のスツールに座る。シリンドー

型のランプから光の輪が落ち、べとつく桃心木色のカウンターに肘を立て、飲む。カラオケもジュークボックスもない。カウンターの向こうで、四十過ぎのママさんが立つて。とろんとした表情で立つて。何もしやべらない。サントリ一角のダブルを、氷を鳴らしながら飲む。吐く台詞は「お代わり」だけ。週に二、三回は通っていたのに、ママさんの方から聞いた台詞は「いらっしゃい」「ありがとう」、それに五、六杯目ぐらになると「よく飲むわネ」。

酔う。鬱が流れ、躁が浮かぶ。条理もないはしゃぎに駆り立てられ、傍にある黒電話に手を伸ばす。あちこちの酒場に果喰つている他社の記者、知人らを探し求め、電話を掛けまくる。すでに日は替わろうとしている。

交信の範囲は東門、北野町だけでなく、元町、国鉄神戸駅前、新開地までおよぶ。北野町にある数軒の酒場が集合場所となるケースが多く、ボソボソとバカ話を始める。午前一時、二時になると男たちはゆらゆらと店を出て行く。

深夜から未明にかけ、毎晩、繰り返された狂操は何だったか。新聞記者たちには酒によつてしか流せないような獨得のすさみがあつた。ほとんど人格が破綻してしまつた極道もいた。

十年経つた。東門への酒場通いはぶつり止まつた。街が変わつてしまつた。

この十年間、東門街はすさまじい勢いで変貌した。道路整備、区画整理による立ち退きなどで木造の酒場ビルは殆ど姿を消した。瀟洒な高層ビルが建ち並び、街全体がみ違えるように明るくなり、

がにイヤになり、店をたたむ。

生田警察署のデータによると、東門を中心としたスナック、バーなどの深夜飲食店は2、979店。クラブ、キャバレーなどの風俗営業店は45店。「新世紀」「紅馬車」などの大型店は社用族の減少によって姿を消し、中、小規模化の傾向が進んでいる。転廃業はここ数年激しくなり、経営者の夜逃げは再三、という。

客層も変わった。若者向けの居酒屋が目立ち始め、金がないはずの学生や未成年がバーやスナックに入りびたる。O.L.、女子学生の飲み客も増え、嬌声を上げて歌い、踊り、路上や駅のトイレなどで狂態をさらし吐く。

街の風俗化と資本の進出は、ポートピア'81の年を境に急速に進んだ。町全体が健全、健康になり、酒飲自体が日常のことのようになった。水の匂いも、神々の息吹きも漂つて来ないネオン街で飲んでもおもしろくない。

だが、探せばある。

八年ぶりに大丸北側の露路にあるスナック「マコ」に行つた。ママは作家、柏木薰さん。神戸の文学者たちの数少ない溜り場として、時に賑う。もともと酒場での文学談義は稚気に溢れていていい。

「ナツメソーセキをどう思いますか」

「ソーセキってキミ、君はどこの出版社のソーセキを読んだんだネ」

「えつ、ボクは新潮の文庫本で…」

「ダメだよ。ソーセキはね君、イワナミの全集本で読まなければ。うん、巻八の三百三十二頁上段

瘴気のよう包んでいた小便の匂いも消えた。

資本の論理がネオン街を包み始めた。飲み屋業が産業化し、店と店との間の競争が激化し、企画、営業力が問われるようになった。小便臭いビルなどひとたまりもない。「ボチボチやっていけたらいいわ」などと言つていたママが作り笑いの愛想を振りまき始め、客が帰った深夜、カウンターの上で形相を変えて小さな電卓のデジタル数字をにらみ、深い溜め息をつく。昼間はツケの取り立てに走り回り、「きょうは払えんナ」などと言われると、あらぬ愁訴が始まる。そのうちさす



スナック“マコ”は文学者の溜り場。ママ自身、作家である。

のあたりは確かに良い、うん」

どんな深刻な文学談義も、酒場でわいわいやる時はこの程度の意味しかない。酒の精によって流れされ、カウンターの向こうで柏木さんが多分、笑っている。

「だけど、だんだんしんどくなっています。家賃は上がるし……」町が変わり客層も変わつていく中で、昔ながらの店は「後退戦」を強いられている。

後退に後退を重ね、経営者も、もちろん客もいない店に案内された。東門から東、幅一mほどの



カードを並べ、運勢を見る“五十鈴”的ママ。

薄暗い路上のつきあたりにある酒場「五十鈴」。

古い木造建ての一階の窓から黄色い光が漏れている。間口一間ほどのちっぽけな店で、ドアにはカギがかかっている。

「おかしいナ」。同行の女性編集者がドアをたたく。おばさん、おばさんと、数回叫ぶ。

「あいヨ」。いきなり二階から老女が顔を出し、「いま降りるからね」。

坂原キミ子さん。戦前から店を始め、トアロード、水道筋と転々とし、「五十鈴」が六軒目。昔話に花が咲く。肉感的な美人であつた若い頃の写真を見せてくれた。趣味のトランプ占いで、「あなたの運勢は良い」。

「昔の東門は、しもたやが並んでいるだけの町だった。食べるものを探すため、トアロードを降りたところにあつた闇市に良く行つた。柱に突き刺した松明の光の下で、肉マンやらいろんなモノを売っていたの。あの肉マンのおいしかったこと! 凄い人で、搔き分け搔き分けながらモノを買った。あちこちには、まだ死体がゴロゴロしていてね。お巡りさんがリヤカーに乗せて運んでいく。つけて行つたら国鉄の神戸駅の高架下に死体を積んでいた。死体が山のようにうず高く積まれ、お巡りさんは死体の山にハシゴを掛け、ひょいと上方に放りなげたの。ひょいっと……」

出されたロオルキヤベツをかじりながら聴く。すでにウイスキーの水割りダブル三杯、二合瓶日本酒を二本開けていた。ほんのりとした酔いに包まれ、老いたマムの長い口舌の背後に生田の森からやつて来た神々の息吹を感じ、耳朶の周りには遠い川のせせらぐ音すら巡つた。